

新宮山彦ぐるーぶ第1960回

新春登山「天川村・天和山(Ⅲ)△1284.8m' 点名：川瀬峠」

下見山行 ◇2017年12月09日(土) 曇り

11月に事務局から「新春登山の候補地はないか？」と尋ねられ、大峰山脈の眺望が随一と言われている天川村の天和山(てんなさん)を提案したところ、すんなりと決まってしまった。

天和山に登ったのは、20年ほど前なので、ルートの確認に行くことにした。



登山口の和田発電所



尾根を直登



川瀬峠に到着

五條市の宗川野から勢井を経由して、R309の新川合トンネル北に出る。R309には少しだが積雪があった。新川合トンネルを抜けると、路面は白くなって川合の三差路も雪が残っていた。川合から和田発電所に向かっていくと、徐々に積雪は無くなり和田発電所前の道路は乾燥していた。

橋を渡り、登り出してしばらくは雪がなかったが、No.32鉄塔を過ぎた辺りから完全に積雪の登山路になった。

アイゼンを付けようかと迷いながらNo.31鉄塔までゆっくり登

ったが、急登に耐えかねて此処でアイゼン装着。P1183mまでの尾根を登り詰めて、川瀬峠へと下る。雪は降っていないが曇りで眺望はない。気温もマイナス3℃ほどで、風が弱いので寒さはあまり感じない。



山頂手前の着雪尾根



天和山の三角点と山頂標識



川瀬峠から45分かけて天和山山頂に到着。川瀬峠からの積雪は約20cmあって、足元を確認しながら歩いたので、少し時間がかかった。山頂からは、東西南北すべて真っ白で何も見えない。天候が回復する気配もないので、写真を撮ってすぐに、来た道を引き返した。昼食は歩きながらおにぎり3個で済ませた。下りは休まず降りて丁度2時間、登りは約3時間半だった。ルートは、天川村和田と大塔村篠原を結ぶ昔の生活道で、現在は関電の送電線巡視路になっている。そのため道は、はっきりして、危険なところも無い。

行動タイム

和田発電所(登山口)08:25→11:00川瀬峠→11:50天和山11:55→12:31川瀬峠→13:56和田発電所(登山口)。

新春登山

◇2018年01月03日(水) 曇り後雪しぐれ

◇参加者：川島 功、濱野兼吉、沖崎吉信、畑林清子、中前 偉、
上村洋司・和美、乾 克己、梅谷清二、加藤洋子、
福田克憲、梶野照雄。 12名。

前日に沖崎さんから「8時半に和田発電所到着予定」と連絡があったので、6時15分に家を出た。No.33にも積雪はなく、8時10分に和田発電所前に到着、和田郵便局の隣に車を止めて靴を履き替えていると、白い乗用車が坂本方向からやってきて、発電所前の道路脇に止まった。ホームページの行事案内を見て初参加された座間市の福田さんと、新宮市出身でお母さんが当ぐるーぷ活動に参加していたとの事。

猿谷ダム辺りで、雪が激しく降り瞬く間に路面が白くなり、県道No.33号線に入り川沿いに進むにつれ、雪がなくなると8時20分沖崎(上村夫妻・畑林同乗)、中前車(川島・濱野同乗)が到着。乾車(初参加の梅谷・加藤同乗)は8時25分の到着だった。途中で、檀原神宮初詣の渋滞で通過に30分かかってしまったようだ。



全員到着



メンバーの紹介



No.33 鉄塔で着衣調整

全員が揃って、発電所前でメンバーの紹介(初参加の梅谷・加藤・福田)とルートの簡単な説明をした後歩き始めた。

先月に下見した時よりも雪は少なくなっている。杉植林帯のモノレール横の掘れ込んだ生活道を辿るが、先頭・乾さんのスピードが速く、付いて行くとすぐに汗をかく。No.33鉄塔で着衣の調整。殆んどの人が上着を脱いだ。しばらくして小さな霰が降り出し、また上着を着なくてはならない様になった。



吹雪の中を



川瀬峠・風に背を向け休憩



山頂に到着

登るにつれて霰が雪に変わり、風も強くなって気温が下がってきた。急登が始まる手前のNo.33鉄塔でアイゼンを装着。積雪は少ないが滑る心配が少ないのでちよつと安心できる。

このコースで最もきつい尾根道を登りNo.31鉄塔で小休止。No.33鉄塔手前から尾根を回り込み鉄塔上の尾根道に登り、人数を確認すると沖崎・乾さんが追いついて来ないが先行する。

尾根を登り切ってP1183mを経て下ってNo.29鉄塔を通り川瀬峠迄、ほぼ同じペースで進む。風はますます強くなって、風上に顔を向けると、雪が顔に当たって痛さを感じるようになってきた。

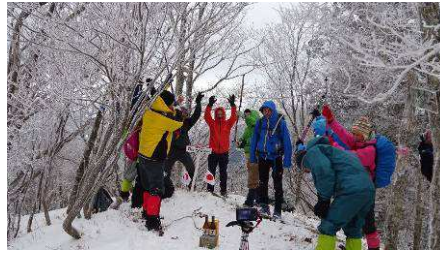
気温はマイナス7℃に下がっている。川瀬峠に到着、休憩も立ったままで風を背に向けて小休止。長い時間休んでいると体が冷えてしまうので、最後尾が見えた時点で山頂へと歩き始めた。11時50分全員が天和山山頂に到着。中前さんが担ぎ上げて下さった新春登山の山頂標識と国旗を設置。恒例の万歳三唱の後、お神酒が振舞われ乾杯した。



山頂標識設置と国旗



シートを張り昼食



今西先生流の万歳三唱



弥山・八経ヶ岳は見えず



お神酒のふるまい



全員で記念撮影

山頂では、吹雪と低温でゆっくりとはできず、東側へ少し下って、風除けのシートを張り昼食にする。濱野さんが重いシートを担ぎ上げて下さったシートのお陰で、強い風は避けられたが、低温のため手早く食事を済ませる。食後にはカステラや饅頭のデザートがあったがゆっくり味わうところまではいかなかった。

前方に弥山、八経ヶ岳、明星ヶ岳等の大パノラマが見渡せるはずだが、薄黒い雪雲に覆われて山頂部は全く見えず。雲が流れ瞬間に、特徴のある頂仙岳と聖宝谷と思われる雪原が確認出来ただけだった。観音峰はよく見えていた

昼食後、風除けのシートなどを撤収して下山開始。登って来た時より積雪が少し増えている。ズボンで小休止後、乾さんが眼鏡を無くしたと思われるアイゼン装着地点を捜したが、積雪等で見つけられなかった。各自、適宜アイゼンを着脱して、15時に和田発電所(登山口)に全員無事到着し、簡単な終礼後に解散した。



下山中のスナップ写真



和田発電所に無事下山

今回は、天気が悪く大峰山脈の大パノラマは、見ることが出来なかったが、冬の良く晴れた日には素晴らしい眺めが見られる場所なので、頭の片隅にでも覚えておいて、再挑戦して頂ければと

思います。

行動タイム

和田発電所(登山口)08:45→10:05No. 31 鉄塔 10:15→No. 30 鉄塔上
の尾根 10:35→P1183m10:50→10:00 川瀬峠 11:05→11:50 天和山
12:55→13:25 川瀬峠→No31 鉄塔 14:10→15:00 登山口)解散 15:15



(記：梶野)